

小中学校連携による協働的研修プログラム開発研究の成果と課題 —平成22年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム による採択事業をもとに—

山崎友子ⁱ・James M Hallⁱⁱ・菅原文江ⁱⁱⁱ・高橋長兵^{iv}・菅野弘^v

(2011年3月4日受理)

Tomoko YAMAZAKI, James M HALL, Fumie SUGAWARA,
Chohei TAKAHASHI, Hiroshi KANNO

Outcomes and Challenges of the Development of a Cooperative In-service Teacher
Training Program

Action is with the scholar subordinate, but it is essential.

Without it he is not yet man.

Without it thought can never ripen into truth.

— R. W. Emerson, “The American Scholar”^{vi}

1. はじめに

本論では、平成22年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムとして独立法人教員研修センターに採択された「小中学校連携による協働的研修プログラム開発～英語指導を中心に」(略称：CMCP)(実施主体：岩手大学、連携機関：盛岡市教育委員会)において実施した教員研修の成果と課題を考察し、新たな教員研修のモデルとして効果的と思われる点を提案する。

平成20年度学習指導要領改訂により、中学校では英語の週当たり時間数がすべての学年で増加し、小学校では外国語(主に英語)活動が高学年で必修となり、英語に係わる教員の役割が増大している。一方、少子化等により学校規模が変動し、教員間の学び合いの機会が減少している。さらに、改正教育基本法では小中学校の義務教育を一体として捉えるようになっており、小中学校の

教育を繋ぐ新たな研修のあり方が模索されているところである。特に、平成23年度から全ての小学校において高学年で実施される外国語(主に英語)活動については、英語の専門性の面からの支援が求められている。CMCPは、このような背景の中で、岩手大学教育学部と盛岡市教育委員会の連携協力に関する協定(平成21年度締結)を基に小中学校の教員の授業力向上を目的として立案された教員研修モデル開発研究である。

CMCPでは、英語活動に焦点を絞り、様々な形態での研修を実施した。最終課題として、小中学校の教員を混合編成したチームで行う小学校での英語活動の授業実践を求めた。本論では、CMCPの研修内容・形態を紹介し、受講者へのアンケート、授業後の児童へのアンケート等をもとにその成果と課題を検証する。

i 岩手大学 教育学部、ii 岩手大学、教育学部、iii 盛岡市教育委員会、iv 岩手大学教育学部附属小学校、v 岩手大学教育学部附属中学校、vi 2010年12月に開催された本事業による特別講演会「これからの英語教育を創る—岩手の小中学校英語教育連携に期待すること—」における講師星野勝利岩手大学名誉教授による引用から

2. CMCP の概要

小学校教員と中学校英語科教員を対象とし、盛岡紫波・岩手・花巻遠野・胆江・九戸・二戸地区の公立学校の教員37名、岩手大学生および卒業生25名が参加した。小中学校の教員合同で研修を実施し、最終課題として混合編成の4人1組のチームで小学校英語活動の授業実践を6校で行った。小学校教師の持つ子ども理解・授業展開技術と中学校英語教師の英語の知識・指導技術の交流により、協働的な学びの場を創り出し、受講者の不安感等の情意面での阻害要因を低減し、授業技術の確実な深化と自ら学ぶ教師像の獲得を目指すもので、様々な「交流」（異校種、異世代、異なる立場）場面を設定し、英語絵本を橋渡しに考えた。

研修の形態は、①特別講演2回（岩手大学名誉教授・全国小学校英語教育学会元会長）②講義（大学教員・指導主事・附属校教員）③授業参観（附属校）3件④ワークショップ（大学教員・附属校教員）6回⑤個別助言（大学教員・指導主事）⑥授業実践と多様な形式を準備し、全体のイメージ作りから個別のスキルへ、さらに個別のスキルを統合した授業実践という流れ、参加型ワークショップと授業実践のサイクル作り、グループワークによる同僚との学び合いという方式を採用入れた。

授業参観では、附属校の教員が授業を提供した後、授業研究会ではなく、観察をもとに受講者が技能を深めるためのワークショップを行った。また、英語教育科学生に、グループワークに入り、英語の読み手となるなどして、面識のない小中学校教員混成グループの活動の潤滑油的役割を果たすことその他、提供授業についての児童のアンケート集計結果をその後のワークショップで直ぐにデータとして示す役割を与えた。

英語絵本を使った英語活動の展開を研修内容とした。英語絵本を使った授業実践という最終課題に向けて、小学校の英語活動全般の趣旨・事例の紹介の後、英語絵本を紹介し、英語での読み聞かせの方法、読み聞かせを取り入れた授業構成についての講義・演習・授業参観・マイクロティーチ

ングを行い、最終研修会を各実践の発表と学びのまとめにあてた。

3. 運営体制

実施主体である岩手大学の教育学部英語科教員2名と附属小学校1名、附属中学校1名、連携をしている盛岡市教育委員会学校教育課2名からなる連絡協議会が運営に当たった。主たる役割として、教育学部が企画・教材開発準備・実施・連絡・記録、附属小学校が授業の提供・研修会場の提供、附属小中学校が研修会での指導、盛岡市教育委員会が受講者の勤務態様への対応・研修会での指導を中心的に行った。研修会ごとに受講生にアンケートをとり、より効果的な研修方法を把握し、次回研修会への参考とした。プログラム全体の評価については、外部評価を盛岡市公立小学校元校長に依頼した。

4. 研修日程

スケジュールを表1に示した。研修会6回と特別講演会2回の他に、最終課題のためのチーム・ミーティングが随時開かれた。特別講演会は一般公開とした。研修会は継続した参加だけでなく1回だけの参加、途中からの参加も受入れた。最終課題に取り組んだ受講生は、小学校教員12名、中学校英語科教員10名で、チームごとに3回前後の打ち合わせをもった。

表1 CMCP 研修日程

5月 20日（木曜）

特別講演会 14：45～15：45（一般開放）

於岩手大学

渡邊時夫先生：「これからの英語教育を創る
—小中学校の英語教育連携の可能性—

第1回研修会 16：00～17：00 於岩手大学

* CMCP の趣旨説明と初顔合わせ

27日（木曜）

第2回研修会 12：30～16：30 於附属小学校

* 附属小学校の授業参観・ワークショップ

* 英語活動の構成・絵本の読み聞かせの授業

<p>のイメージを作り</p> <p>6月 26日 (土曜)</p> <p><u>第3回研修会</u> 13:00~16:00 於岩手大学</p> <p>* 英語絵本を読みながら英語力アップを図る</p> <p>* 小学校の先生: 発音、単語、Reading skill 等の演習</p> <p>* 中学校の先生: 発音・語彙・Reading の指導方法を学ぶ</p> <p>夏休み 8月2日 (月曜)</p> <p><u>第4回研修会</u> 10:00~17:00 於岩手大学</p> <p>* 小中学校の英語(活動)の授業をビデオで視聴し、小中学校の連携のための様々な指導方法を学ぶ。動機付けの方法、帰納的指導・演繹的指導、様々なアクティビティ等</p> <p>* チームでの最終課題授業案作成開始</p> <p>9・10月 <u>個別指導期間</u> (メールでのやりとり</p>	<p>や学校訪問による助言) 於各学校等</p> <p>10月30日 <u>第5回研修会</u> (土曜) 9:30~15:30</p> <p>於附属小学校</p> <p>* 附属小学校の英語活動2クラスの参観とワークシヨップ</p> <p>* 模擬授業を行い、最終課題のチェック</p> <p>11月~ <u>最終課題</u>: 小学校英語活動のTT (ティーム・ティーチング) を実践</p> <p>ビデオに録画 (授業日: 11月-3校、12月-2校、2月-1校) 於各学校</p> <p>12月 12月11日 (土曜)</p> <p><u>第6回研修会</u> 13:00~15:00 於マリオス</p> <p>* 最終課題授業の概要発表とまとめ</p> <p>* 研修全体の振り返り</p> <p><u>特別講演会</u> 15:00~16:00 (一般開放)</p> <p>於マリオス</p>
---	--

表2 第4回研修会メニュー

CMCP WS (8月2日) のメニュー	
1. 日時: 8月2日 (月曜)	
	10:00~12:00 13:00~16:00
2. 場所: 岩手大学教育学部旧1号館405室 (予定)	
	変更があれば、玄関に掲示しますので、ご覧下さい。
3. 内容: 最終課題に向けて	
1) Game as warming up (ホール)	10分
2) 班編成	
3) 英語運用スキル復習 (アンハー)	10分
4) 中学校の英語授業のビデオ視聴とねらいの説明 (岩手大学教育学部附属中学校、菅野)	15分+5分
5) 絵本の紹介と読み聞かせ (ホール)	30分
6) 小学校英語活動のビデオをもとに	45分
— 附属小学校の絵本を使った活動 (高橋、ホール)	
— Critical Thinking (T小学校) (山崎)	
— TT (ティーム・ティーチング) と教師の役割 (H小学校) (山崎)	
~ ~ ~ 昼 休 み ~ ~ ~	
7) 各参加者の実践についての情報交換	1時間
* 自主作成教材 (カルタ、フラッシュカード等) を持参し、ご紹介ください。	
8) 最終課題の構想 (グループ・ワーク)	2時間
(1) 説明 (2) discussion & planning (3) short presentations	
* 最終課題に向けて	
最終課題は、 <u>小学校と中学校の先生がグループで小学校英語活動に取り組みます</u> 。実際にTTを行うことを目指しますが、時間等の制約で無理な場合は、構想や準備で参加してください。	

星野勝利先生：「これからの英語教育を創る
ー岩手の小中学校英語教育連携に期待すること」

5. 研修内容

研修会では、①小学校英語活動の見学、②英語活動のための様々なアクティビティの紹介と練習、③英語運用力向上のための演習、④小学校と

中学校の主な指導方法の説明、⑤英語絵本を使った授業の紹介、その授業構成の説明、⑥英語絵本の読み聞かせのコツと練習、⑦英語絵本を用いた授業案の作成、⑧研修・実践の振り返りを行った。

授業見学とスキル向上を目指した演習の後、英語絵本を用いた最終課題への取組が開始する第4回研修（8月2日）のメニューを表2、最終課題についての指示を表3に、チームを編成し授業案

表3 最終課題についての指示

<p>1. 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中学校の先生が小学校の英語活動を体験的に知る 2) 小中学校の先生が、Pre & post-storytelling activities の具体的活動案を作成し、その有効性・必要性を知る。 3) 中学校の先生は、Pre & post storytelling activities を中学校での読みの活動に取り入れる工夫を知る。 4) 小中学校の先生ともに、子どもの参加型で実効ある「活動」の構成を学ぶ。 5) 小学校の先生は、英語絵本を教材としてTTを構想し実施することを通して、英語と英語圏の文化についての知識を仲間から得る。 6) 小中学校の先生が、TTを通して、T1・T2…の役割についての理解を深める。 7) 小中学校の先生が、授業で英語を使うことに自信を深める。 <p>2. 最終アウトプット</p> <p>チームを約4人で編成し、その中の一人のメンバーの勤務先等（小学校）において、11月～12月上旬に、英語絵本を使った英語活動（1単位時間）を行う。</p> <p>3. 手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 8月2日（月曜）：チーム編成。絵本の選択。絵本の読み聞かせについての講習。 2) 9月中旬頃までに：チーム会議を開き（委員にも声をかけてください。できるだけ参加します）① Pre-storytelling Activity の構想を持ち寄り ②絵本の読みの練習 ③絵本で伝えたいこと（目標）の設定をする。 *①③をご報告ください。 *会議費をお支払いします。日時・場所をご連絡ください。 3) 10月中旬まで：Post-storytelling Activity を決定。各自読み聞かせの練習。 *委員にご報告ください。出張相談も受付ますので、ご連絡ください。 4) 10月下旬：委員に教案（一次案）をご提出ください。⇒委員からフィードバック 5) 10月30日（土曜）：岩手大学附属小学校において研修会 ①附属小学校の英語活動の参観 ②参観の感想交換 ③チームごとに教案を完成させる ④ short presentation ⑤振り返り 6) 11月上旬～12月上旬：小学校において、英語絵本を使った英語活動（1単位時間）を各チームで実施。 *事前に日時をご連絡ください。岩手大学からできるだけ委員あるいは院生が行き録画します。行けない場合は、実施校で録画していただき、テープを委員へ郵送してください。 7) 12月11日（土曜）：マリオス研修室（予定）。 <p>①振り返りの研修会：録画をもとに ②特別講演会：星野勝利岩手大学名誉教授「岩手の英語教育を支える教員像（仮題）」</p>
--

表4 第5回研修会メニュー

H22年度岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業との連携による 第5回 CMCP 研修会	
1. 期日:	10月30日(土曜) 10:00~15:30
2. 場所:	岩手大学教育学部附属小学校(盛岡市加賀野)
3. 内容:	午前中 附属小学校5年生の授業提供(2クラス)
1)	5年まつ組 10:00~10:45 授業者: Ken Itagaki (HRT) & Kent Ichikawa (Student ALT) 単元名: 英語ノート1 Lesson 5: いろいろな国の衣装を知ろう
2)	5年うめ組 11:00~11:45 授業者: Eikou Yaegashi (HRT) & Student ALT 単元名: 英語ノート1 Lesson 9: ランチメニューを作ろう + 英語絵本 "I'd really like to eat a child!"
3)	Lunch Seminar 12:00~13:00 昼食を食べながら ① Moodle の使い方 ② これまでの CMCP 研修会のまとめと意見交換を行います
4)	Discussion 13:00~13:30 ① 『英語ノート』のみを教材とする英語活動と英語絵本も使った英語活動の比較検討 (アンケート結果を参考に) ② 英語絵本の読み聞かせのコツ
5)	Group Work 13:30~14:30 最終課題に向けての準備(読み聞かせの練習、教案の完成等)、次のプレゼンテーションの準備(課題二つのうち一つを選択してください) - 個別支援付
6)	プレゼンテーション 14:30~15:15 ① CMCP 最終課題である授業の構想について説明します ② 読み聞かせ前の活動、読み聞かせ、読み聞かせ後の活動のうち一つを選択してプレゼンテーションをチームの出席者全員で行います * CMCP 研修会にこれまで参加しておられなかった先生は、英語絵本を選択し、読み聞かせの練習をしてみてください。
7)	ラップアップ: 参加者・附属学校教員・盛岡市教委指導主事から
8)	アンケート記入

作成中の研修である第5回(10月30日実施)の研修メニューを表4に示した。

6. 教材としての英語絵本とその使用方法についての研修

小学校の教員は国語等の教科の中で絵本の読み聞かせを行うことがある。この技能を活用できるよう英語絵本を教材とした。英語絵本の選択にあたっては、小学校英語活動のテキストとして主に使用されている『英語ノート』で取り上げられている言語項目を含むものを選択した。採用した英

語絵本は表5の通りである。

英語の絵本であることから、教師にも児童にも分かりやすいものとなるよう修正したテキストを準備した。また、絵本をデジタルファイル化した他、プリントアウトしたものをラミネートしA3版の紙芝居とした。受講者はデジタルファイルから電子黒板に読み取り、教室で大きな画面で児童に示すこともできるようになった。このような準備をした上で、英語絵本を使った授業の構成の仕方を第4回研修会で示した(資料1参照)。

表5 CMCPで取り上げた英語絵本と『英語ノート』の言語項目

英語絵本	『英語ノート』と言語項目
<i>Hats!</i>	Book 1, Lesson 5: I don't like blue.
<i>I'd really like to eat a child</i>	Book 1, Lesson 9: What would you like?
<i>Throw your tooth on the roof</i>	Book 2, Lesson 6: I want to go to Italy
<i>Pancakes for breakfast</i>	Book 2, Lesson 8: Please help me.

7. 児童の反応

“Hats!”を取り上げた授業の感想から：「最初は、悪口を言われていたけど3人はその人をほめてあげて仲よくなったところが感どうした」等の感想から、物語の内容に注目し内容が理解できていることが分かる。英語についても、「英語は、表現で分かったし、楽しかったからです」「あまり見たことがなかったから、すごく英語の発音が良くて聞きやすかった」と内容の理解に教師の身振りや英語の発音のよさが役立っていることが分かる。また、「自分でつづきを考えたり、英語で話していたから」と他教科の学習にも通ずる学習ストラテジーが活用されている。心に残った英語については、「ブルーアントレッドハット」「アイライクパープルハット」「ナイスハット、センキュー」等意味を持ったコミュニケーションで使用される語句・文が多く挙げられていることは、物語の理解が言語習得に密接に関わることを示している。

“I'd really like to eat a child”の授業の感想から：「わにのお話で食べようとした子供に遊ばれるというのが面白い 女の子がいきなりわににたいして暴力をふるって川になげたという急な展開の差がとても面白かった」と物語の内容を十分に理解していることが分かった。「英語だったけど話のてんかいがびっくりするようなものだったし、先生の読み方が上手だったから」とすべて英語であっても、教師の読み聞かせの技で児童は理解できていた。

アンケートで、これからも英語絵本の読み聞かせをしてほしいかという問いに対して、「はい」との回答が97%（「いいえ」はクラスに1名）と

いう高い割合であり、英語での絵本の読み聞かせが児童に好評であり、英語に違和感なくふれ、学習ストラテジーを活用する機会ともなっているとと言える。

8. 研修受講者の感想・評価

研修会后、受講者へアンケートを実施した。研修で取り上げた項目について役立ったかどうかを尋ねる問いに対して、小中学校両方の教員の80%以上から「役立った」と回答があった項目は、以下のとおりである。

- 1) 授業参観
 - 2) 最終課題授業からわかったことのまとめ
 - 3) Moodle の使い方の説明
 - 4) Chain Writing
 - 5) 小学校の英語活動のビデオ
 - 6) 最終課題授業のハイライト部分の視聴
 - 7) 英語ノートを使った授業と絵本を使った授業についてのディスカッション
 - 8) 参加者の実践についての情報交換
- ※ 1)と2)は100%であった。

中学校英語科教員の80%以上から「役立った」と回答があったが、小学校教員からは80%以下であった項目は、以下のとおりである。

- 1) これまでの研修のまとめ
- 2) アンケート結果の報告
- 3) グループ別発表についての質問・意見交換
- 4) 昼食時間中の意見交換
- 5) Warm up の活動
- 6) 小学校の英語活動についての説明
- 7) 絵本を使った活動の意義・効果についての

説明

- 8) 絵本を使った活動の構成について
- 9) 運営協議会委員からのコメント

小学校教員の80%以上から「役立った」と回答があったが、中学校英語科教員からは80%以下であった項目は以下のとおりである。

- 1) 各チームの最終課題授業の概要の発表
- 2) 絵本を使った活動のビデオ
- 3) 最終課題に向けての相談・練習

小学校教員の評価が特に低かったものに、「Warming up」「英語運用スキルの復習」があった。英語使用に対する苦手意識があると考えられる。小中学校教員がともに役立ったと回答したものの特徴として、視覚的な素材、意見・情報の交換・まとめがある。一方、中学校英語科教員が役立つと回答するが小学校の教員はさほど役立つと回答していないものが9項目もあることから、中学校英語科教員と小学校の教員の学びのスタイルが異なっていると考えられる。中学校英語科教員はより分析的な思考をし、客観性・論理性のある研修内容をより好み、小学校教員は実物に即した共同的研修をより好む傾向が見られる。

以下、記述式回答をいくつかの柱に分けて分析してみる。

教材としての英語絵本について

「絵本読み聞かせの活動は小学校英語と中学校英語の橋わたしとなる活動だということを実感した。読み聞かせが中学校の oral introduction につながる」「中学校の授業で絵本を取り入れるにはどうしたらいいか？いままでに目先の進度にとらわれていて授業を進めてしまいがちになっていたが、できることなら、取り入れて授業をできたらと思います」「絵本を読む理由、コミュニケーション能力など根っこを考えるとということ。基本的なことですが、やっているうちに忘れてしまいがちなので」等の記述等から、英語絵本を研修の教材とすることは小学校・中学校両方の教員にとって効果があると考えられる。

研修形式について

「他の先生の授業を見て学べることでイメージもわき、自分との違いも認識でき、非常に有意義である」と授業の実際を見ることは有効である。さらに、「他のチームの同じ絵本を使った活動の発表や、実際の授業のハイライトを見させていただき、いろいろなアプローチがあるのが新鮮で、今後の参考になりました」「各チームからの発表で、同じ英語絵本でも使い方がちがうこと、いろいろな効果が期待できることを学びました」と自分自身が体験することにより、他の授業からの学びが深まっており、「実際に授業をやってみて各先生方が改善したいと思ったこと、効果的だと思ったことを共有できたことがとても大きかったと思います」と体験的研修を有効としている。「一年間、この研修会に参加して、授業と一緒に考えること、実践すること、実践を互いに認め合うことを通して、いい出会いがあったなあと改めて思いました。同僚性をこれからも大事に、自分を向上することが、子ども達のためにもなると思ったので、これからまた、がんばりたいと思います」というコメントに表れているのは、協働的な学びであり、同僚性が高まっていることが窺われ、チーム編成をすること、継続した研修とすることが効果的と考えられる。また、「小学校の先生と1つの授業について話し合うこの研修は私にとって初めての経験でとても有意義でした。ぜひ同地区の小学校の先生とも同じように研究したい」というコメントにあるように小中学校の教員が合同で研修をすることは有効であり、かつ、可能である。最終課題の授業を行う受講者の表情はみな生き生きと楽しそうであった。

また、助言者の立場が様々であることも効果的と思われる。「様々な立場の方々（大学の教員、市教委、事務局、附属小の先生など）からのお言葉はとても勉強になる。気づいていないこと、忘れてしまいがちなことを改めて自分の中に再構成させてくれた」とのコメントがあった。

目標について

「プロジェクト全体を通して、展開の事前・後

に何をどのように活動させるか、を考えることで「ただ単に英語ノートをこなす」から「英語ノートを使う」方法を知ることができました。まだ勉強不足ですが、たくさんの授業から多くのヒントをもらえたので、目指すところがありました」というコメントの他、『英語ノート』との関連を求める意見が多かった。新しいことを導入する際、全く新しいものではなく、既存のものと合わせて活用することが受け入れやすいと思われる。

また、「子どもたちの考える（予想する、想像するなど）思考活動のもつ意味とその重要性を捉えることが必要であると再認識。ともすれば、「伝えたい」「わからせたい」「知ってほしい」という衝動にかられ、直接的に言葉を発してしまうが、「待つ」「時間を保証する」という“間”が、子どもの主体性を引き出すことを忘れないようにしたい」等のコメントから、英語指導を中心とした研修であったが、教科指導に留まらず教育・指導のあり方を内省的に考える機会となったことが分かる。目標を指導技法に限定せず、学習者の思考プロセスなど学習過程に普遍的な部分への言及があるとよいと思われる。

このような教員の資質に関わる意識付けには、特別講演も効果的であった。「岩手の小中学校英語教育の連携に期待すること」という題目で、星野勝利岩手大学名誉教授から100年前にすでに啄木が小学校で英語を教えていたことが紹介された。「岩手の先人としての啄木の思いにふれ、この地で教育の道に励むことのできることを一つの縁と考えたいと思った。これからの外国語教育には、未知なるものが大きい、それと楽しんでかわっていかれたらと思う」というコメントが寄せられた。

9. これからの教員研修に向けて

本研究では課題として、小中学校の教員が合同で研修できる日程の調整や費用負担の問題があった。また、小中学校の教員には研修プログラムに対して異なる評価も見られた。これらの課題を成果と勘案し、以下のような形で通常の研修に生か

すことができると考えられる。

- 1) 教材の選定：本研究は英語絵本を教材とした。アンケートから英語絵本には研修の教材として豊かな可能性が窺われた。さらに、中学校の英語科教員は英語絵本を自らが読むことはあるが、英語絵本を教材として読み聞かせを授業で行うことはまれであるので、小中学校の教員両者が英語絵本に対等な距離で取り組むことができた。混合編成の研修において、このような視点で効果的な教材を選択することが一つの鍵と考えられる。
- 2) グループワークによる小中学校教員の交流：小中学校の教員合同の研修は、中学校の学区内というような範囲だとより対応しやすい。
- 3) 小学校教員と中学校教員のニーズや学びのスタイルの違いに配慮してプログラムを工夫する。例) 英語スキル演習では、まず学校英語科教員に演習を行い、その内容を中学校英語科教員が小学校教員に指導する。中学校英語科教員には英語絵本のテキストの修正方法を研修で伝え、修正の担当とする。
- 4) 教育委員会・大学からの支援：中学校の学区内でのグループ研修への支援として、大学と附属校が教材とモデル授業を共有する仕組み（Moodle、授業DVD、アイデア・理論集等）を提供し、市町村教育委員会が研修受講者の勤務態様を担当し、県教育委員会が特別講演会等広域での事業を担当する等の連携を学校現場への支援として行うことが考えられる。
- 5) 視聴覚教材を活用する。ただし、さらに、受講者自身が体験する実践とまとめの時間を設けることが有効である。
- 6) 継続した研修を原則とするが、柔軟に対応する。全て参加できない人にはDVDやMoodleで補完する。
- 7) アンケート等により、研修内容・形式へフィードバックを随時行う。
- 8) 受講生同士が学びあったり、情報交換をする時間を設ける。
- 9) 新しい内容・形式を導入するにあたっては、

従来型の慣れ親しんだものとのバランスを考えるとよい。

10) 教員研修と教員養成の融合：小中学校教員合同という異校異交流による研修にあっては、学生の参加も取り入れるとよい。学生が両者をつなぎながら自らも学ぶことができる。

謝 辞

多くの先生方へ研修への参加を促していただいた教育委員会・学校長のみなさま、そして、お忙しい中参加していただいた受講者のみなさまに感謝申し上げます。また、岩手大学教育学部アンハー准教授には英語スキル向上の研修会を担当していただきました。渡邊時夫先生・星野勝利先生には胸を打つ講演をしていただき、中野小学校元校長平賀皓子先生からは外部評価委員として温かい助言・評価をいただきました。お礼申し上げます。

参考文献

James M Hall ・ 山崎友子・高橋長兵・石亀健 . (2010). 小学校と大学の連携による英語活動教員研修. 『小学校英語教育学会』, 10号, pp. 73-78.

James M Hall. (2009). 小学生の理解と興味を高める英語絵本の効果的な読み聞かせ方. 『教材学研究』, 第20巻, pp.59-67.

取り上げた英語絵本

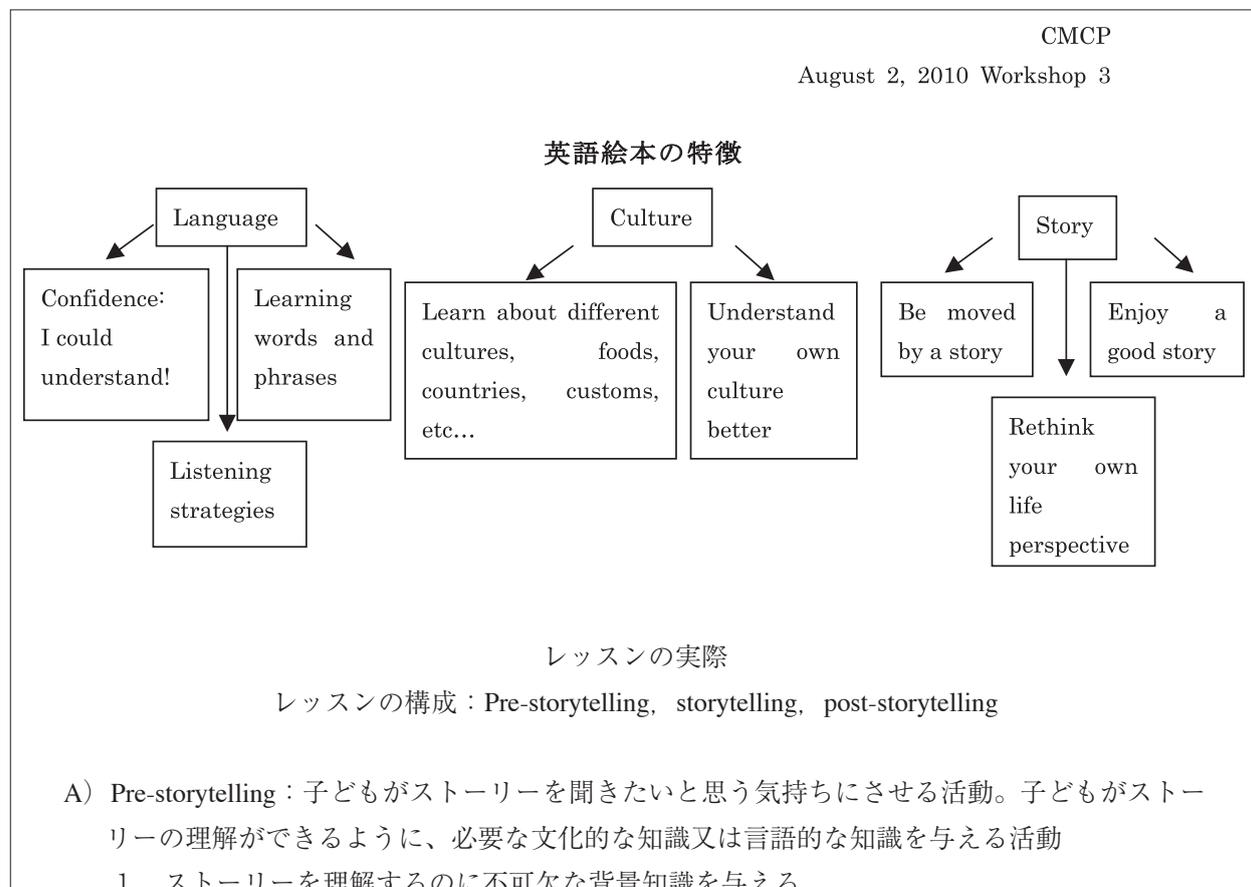
Sylviane Donnio. (2007). *I'd Really Like to Eat a Child*. New York: Random House.

Kevin Luthardt. (2004). *Hats!* Illinois: Albert Whitman & Company.

Selby B. Beeler. (1998). *Throw your tooth on the roof*. Boston: Houghton Mifflin Company.

Tomie dePaola. (1978). *Pancakes for Breakfast*. Florida: Harcourt, Inc.

資料1 第4回研修会資料：英語絵本を使った授業構成について



2. ストーリーを理解するために必要な単語を教える
3. 絵を子どもに見せ、子どもがストーリーを予測する (Yoko、姥屋敷小学校)
4. 絵を見せて、子どもたちにどのような英単語が出るかを予測させる
5. ストーリーの一部を教えて、子どもに、最後に何が起こるかを推測させる

B) **Storytelling** : ストーリーの内容を推測しようとする意識が子どもの聞く力を伸ばすと言われている。従って、読み聞かせの際、子どもがストーリーの全てが分からなくても、落ち着いてストーリーを聞きながら、内容を推測していくことが大切。また、Pre-storytelling 活動及び読み聞かせ中の発問が、内容促進を促すと考えられる。

Storytelling はインタラクティブ (読み聞かせの最中、発問したり、補足説明したりする) に行うことも、最初から最後まで休まないで読むこともできます。

ストーリーをインタラクティブで読むためには、あらかじめ、どのような質問をするかを決めておくことが重要。

①質問の種類

1. 単語についての質問 : 単語の意味についての質問。例:「『red bean ice cream』は何ですか」
2. 内容理解についての質問 : 本の内容についての質問。
3. 内省的な質問 : ストーリーの内容を自分に関連付けさせる質問。例: あなたは、Tommy のように、お祖母さんの家に行った時、どのような楽しいことをしますか。
4. 絵の質問 : 絵についての質問。例: 「なんで、このベッドに誰もいないの?」
5. 異文化理解の質問 : ストーリーに出る食べ物や外国についての質問。例: キッチンで、Tommy のお祖母さんが使っているものは何でしょうか。
6. 洞察を促す質問 : 主人公の気持ちを想像する質問。例: Tommy はなぜお兄さんに怒っているのでしょうか。
7. 予測の質問 : これからストーリーがどのように展開するかについての質問。例: Nana Upstairs が椅子に縛られていますね。Tommy はどのように反応すると思いますか。

C) **Post-storytelling** : ストーリーの内容の理解、ストーリーに出た言語の理解、ストーリーが描いた文化の理解、ストーリーが触れた話題について話し合うために Post Storytelling 活動を行う。

C1) Language

▶ 単語学習

1. Bingo
2. Hangman
3. **Matching words**: 絵を黒板に張っておく。単語を読みあげ、その単語と合う絵を選択させる。
4. **Draw a word** : 子どもが先生の言った単語を描く。
5. **English words in our language** : 子どもをグループに分け、日本でも通じるストーリーに出た英単語のリストを作る。クラス全体でリストを共有し合う。

6. **Memorizing words:** 黒板を2つに分ける。黒板の左側に子どもが最近聞いた単語を書く。その後、子どもに左の単語で思い出す単語を聞く。例えば「Spaghetti」を思い出させる単語としてイタリアがある。この単語を黒板の右側に書く。その後、左側の単語を消し、右側の単語を使って消した単語を思い出させる。
7. **I went to the market:** 子どもが列（サークルも可能）をつくる。列の先端に立っている生徒が、“I went to the market and bought [ストーリーで聞いた単語、例えば、Yoko の場合 spaghetti]” と言う。次の生徒は “I went to the market and bought spaghetti and mango lassies” と言う、次の生徒は “I went to the market and bought spaghetti, mango lassies, and red bean ice cream” 等と言う。列の最後へ行くまで続く。
8. **What's missing?** 絵・単語カードを黒板に張る。子どもが目を閉じたら、先生が一枚のカードを取り外す。子どもに目を開けて、どのカードが取られたかをあてさせる。単語カードではなく、実物も使うことができる。
9. **Ordering:** 子どもに単語カードを配る、子どもは英単語が言われた順番で単語カードを並べる。
10. **Jump on the pictures:** 子どもたちは輪になる。教師がストーリーの絵を床に置く。教師が絵を指したら、子どもは順番でその絵に飛び込み、その絵が描いた場面の英単語を言う。

▶ ストーリーをもう一度読む活動

1. **Jump up word card (1):** 子どもに単語カードを配る。子どもは自分の単語カードを聞いたら、パッと立ち上がり、すぐ座る。子どもたちに隣に座っている人の単語はなんであるかを推測させることもできる。
2. **Jump up word card (2):** 子どもに単語カードを配らない。子ども自身が自分の好きな単語を選び、その単語が読まれたら、立ち上がる。
3. **Ordering:** ストーリーの絵の順番を変えて、子どもがストーリーを聞きながら、絵を正しい順番に並べる。ストーリーの一部の絵だけを使うことも可能。
4. **Find the mistake:** 教師がストーリーのあるところをわざと間違えて読む。子どもが間違ったところを指摘し、直す。例：(教師が Yoko を読んでいる 教師：“Red bean ice cream is yummy!” 生徒：“Wrong! Yucky!”)
5. **Class read aloud:** 練習をした後、子どもが順番で読む。
6. **Retell the story:** 子どもが何回もストーリーを読んだことがあれば、教師はストーリーの絵を子どもに見せ、子どもがストーリーを話す。
7. **Karuta:** 頁の一部を使ってカルタのカードを作って並べておく。教師があるページを読んだら、子どもが該当のカードを選択する。
8. **Jumble:** 子どもがカルタのカードを使って、教師の読みをききながら、カードを正しい順番に並べる。
9. **General knowledge quiz:** ストーリーに出ていた地理や食べ物等についてクイズをする。
10. **Read the lines:** ストーリーを読む時、子どもが主人公や他の登場人物のセリフを読む。
11. **Pass the picture and tell the story:** 教師があるページを読んで、そのページを子どもに渡す。子どもが同じページを読んで隣の人に渡す。隣の人と同じページを読む。

12. **Remove the pictures** : ストーリーの絵を黒板に張る。子どもは目を閉じて、教師が一枚の絵をとる。子どもはどの絵がとられたかを言う。子どもはこの絵が描いていた場面を説明する。又は、この絵が描いている場面の英単語・表現を言う。
13. **Whistling** : 教師はストーリーを言いながら、ある単語を言わないで、その代わりに口笛を吹く。子どもはその部分の単語を言う。
14. **Acting out** : 子どもをグループに分ける。教師がストーリーを読み、グループは順番でストーリーを演じる。

C2) Culture

- ▶ 体験的な活動
- ▶ General knowledge quiz
- ▶ ALT の short talk

C3) Story

- ▶ Discussion : 次のような質問をして、クラス、あるいはグループで話し合わせる。
 - Did you enjoy the story? What was your favorite part?
 - Which character do you like?
 - Did you understand the story? If not, which part did you not understand?
 - Which was the best part of the story?
 - Which was the worst part of the story?
 - What would you do if you were in the same situation as the character?